

早稲田大学大学院文学研究科
進学説明会

文化人類学コース

説明会概要

スタッフの紹介

コースの歴史と教育方針

修了生たちの進路

國弘暁子 (Kunihiro Akiko)

◆フィールド： インド、フランス

◆研究テーマについて：ジェンダーと宗教に関わるテーマに関心を持つ。

インド北西部のグジャラート州において、世俗のジェンダー規範を捨てて女神に帰依する人々（一般にはヒジュラとして知られる）と日常を共にしたフィールドワークを実施。それによって、規範の外に存在する異人が必要とされる喜捨の慣習、そして、ジェンダー規範を永続させるために異人が言祝ぐ慣習についての考察を行う。現在は、ジェンダーとヘゲモニーとの関連について関心を持ち、その研究テーマを追究するために、フランスでのフィールドワークに挑戦中。

松前もゆる (Matsumae Moyuru)

◆フィールド：ブルガリア、（日本）

◆研究テーマについて：ジェンダー、仕事（労働）、出稼ぎや移動と場所・環境、日常における民族や宗教といったテーマに関心をもっています。具体的には、主としてブルガリア村落部で継続的にフィールドワークをおこない、社会主義からの体制転換やEU加盟といった社会変動のなかでのジェンダー規範と仕事・仕事観の変容、女性の国際労働移動などについて人びとの日常から考えることを続けてきました。現在は、体制転換以降に育った若者世代の仕事観や家族観に関して考察を進めるとともに、移動（再移動）にともなう社会関係の再編や環境との関係性の（再）構築について考え始めています。

箕曲在弘 (Minoo Arihiro)

◆フィールド：ラオス

◆研究テーマについて：コーヒー産地においてフェアトレードの社会的・経済的影響についてフィールドワークをもとに検討してきました。最近では信用取引や負債、オルタナティブ・フード運動、農産物認証制度による貧困削減の可能性と限界などをテーマにしています。環境と開発、経済に関する分野の研究をしています。とりわけ農家の生計戦略や資源利用、在来の取引関係に着目しています。一方でNGOなどに関わりながら、研究と社会との接点についても考えてきました。

文化人類学コースの歴史



早稲田大学での文化人類学教育には歴史がある



最初に「文化人類学」の用語を教育に取り入れた大学



しかし、コースとしてまとまった組織的教育がおこなわれるようになったのは、比較的最近



後発の大学院教育 → その強みを生かす

現在の文化人類学コースの理念

後発の強みを生かす
ため

1. 基礎教育をしっかり行い、卒業後の
どのような状況にも
備える。

2. 人類学知識
の応用ができる
ようにする。

3. フィールド
ワークを積極的
におこなう。

4. 海外の大学
や研究機関と連
携をとる。

教育の方針



修士課程の段階からフィールド調査（外国でのフィールドワークを含む）



研究資金を取得するためのサポート



フィールド先での
使用言語の学習



フィールド
ワークに強い
人材の育成



「ラポール」の
築き方の学習



留学の
サポート

修士課程の教育

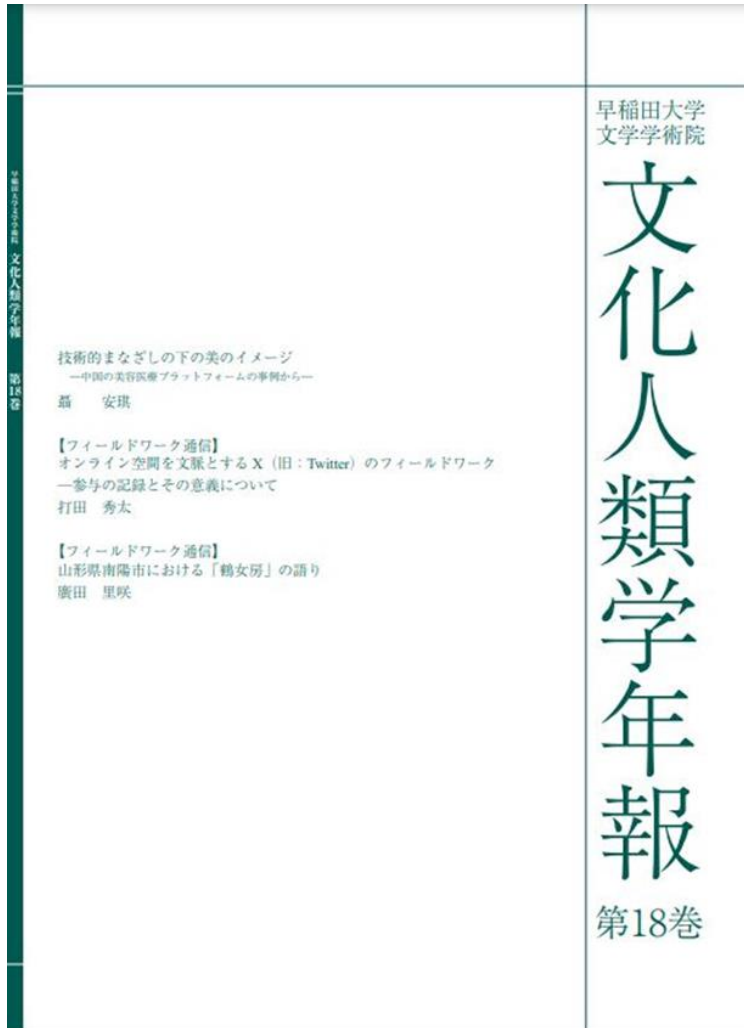
<1年目>

- ・ 基礎理論を学ぶ
- ・ 研究の方法論を学ぶ
- ・ 研究テーマを決める
- ・ テーマにそってリサーチデザインを作る

<2年目>

- ・ 研究の問題点を絞り込む
- ・ フィールド調査を行う
- ・ 結果を分析する
- ・ まとめて論文にし、修士号を取得する

博士課程の教育＜１年目＞



- 先行研究を精査し、その内容を学会で発表、あるいは論文にする。
- 現地の言語を学ぶ（日本でフィールドワークをおこなうにしても、その地域の人々が話す言葉を学ぶ）。
- 自身の研究テーマを絞り、それにそってリサーチデザインを作る。
- 長期フィールドワークのための研究資金を獲得する準備をする。

博士課程の教育

<2年目以降>

- ・ フィールドワーク（1年から2年）
- ・ フィールドワーク結果の中間報告→学会で発表し、また、論文にする。
- ・ フィールドワークのフィードバック。
- ・ 補足のフィールドワーク。

<3年目以降>

- ・ データの分析と論文執筆。
経過を学会で発表、論文を書く。
- ・ 博士論文を完成させ、博士号を取得する。

卒業生の動向

<修士課程>

1. 博士課程進学－早稲田大学、東京大学、京都大学、海外の大学院(ハーバード、コロンビア、カリフォルニア、ロンドン大学等)
2. 企業に就職－マスコミ、映像関係、金融、IT関連、製造業
3. 開発コンサルタントなど
4. 公務員(国家、地方)
5. 国際機関

卒業生の動向

<博士課程>

1. 大学、研究機関

2. 国際機関

3. 国家公務員関連

JICA、大使館など

4. マスコミ、映像関連

5. 開発コンサルタント

最近の大学院生のフィールドとテーマ（例）

<修士課程>

「現代モロッコにおいてファッションデザイナーであるとは」

「現代日本における地方工務店の活動に関する研究」

「オンライン空間の文化とその実践に関する人類学的考察」

「日本におけるトランスナショナルズの文化人類学的研究」

「オンラインゲームにおけるプレイヤー間での関与のあり方をめぐる考察」

「企業移民とその家族のライフスタイル構築—上海古北地区在住の日本人を例として」

「中央アンデス高地に生きる人々の動態」

「横浜中華街における中国東北出身者のネットワーク」

「神に祈るは「文化」にあらず—マスジド大塚に集うムスリムと日本社会の「宗教」・「文化」理解」

「現代社会における聖なる空間の役割」

最近の大学院生のフィールドとテーマ（例）

<博士課程>

- 日本：四国の民俗、新規就農（現代日本における働き方、ライフスタイル）、トランスナショナルベンチャー企業（企業文化）、オンライン空間の文化
- 国外：ラオス（文化遺産、織物、食文化）、フィリピン（開発）、インドネシア（少数民族の言語とエスニシティ）、カンボジア（医療人類学）、ネパール（観光）、トンガ（ビジネスアンソロポロジー）、アメリカ（伝統舞踊の真正性、アラスカにおける生業・宗教・生存）、エジプト（考古学発掘現場におけるアクターの協働）、モロッコ（ファッションと身体）

さらに情報を知りたい方のために

<コースウェブサイト>

<https://waseda-gslas-anthropology.com/>

*研究支援制度等に関する情報も掲載しています

<文化人類学コース室>

戸山キャンパス 33号館8階801室

お問い合わせ先

E-mail: waseda.anthropology@gmail.com